

佳作  
(高校部門)

福岡県立三池高等学校 2年

まつお さきこ  
松尾 咲貴子

あの世から見える桜がどの桜より美しくありますように

木下龍也

祖父が亡くなって一年程経ってこの短歌に出会った。私と祖父はほぼ絶縁状態で祖父が亡くなる二日前に三年ぶりに会った。祖父に対する思いは冷めきっており、話しかけることも笑いかけることもなく、桜が咲き誇る季節にこの世を去った。

この別れをずっと後悔していたときにこの短歌を読んだ。祖父が最期に見たものは私の冷めた顔だった。一生で一番醜いものを見せてしまったと思う。もしあのとときに戻れるのなら、美しく咲く桜のような笑顔を見せてあげたい。

でも、それができないからせめて、「あの世から見える桜がどの桜より美しくありますように」。

出典

新鋭短歌シリーズ1『つむじ風、ここにありません』木下龍也・著 書肆侃侃房